

経営比較分析表（平成28年度決算）

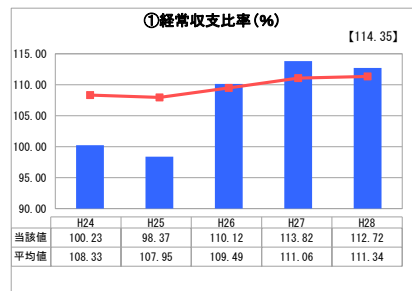
埼玉県 鳩山町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A7	非設置
資金不足比率 (%)	自己資本構成比率 (%)	普及率 (%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金 (円)	
-	97.60	99.90	2,246	

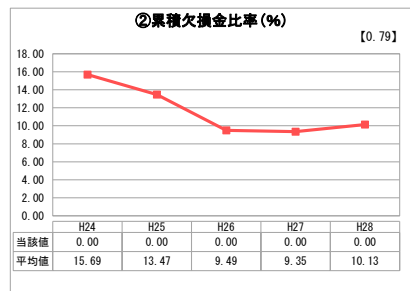
人口 (人)	面積 (km ²)	人口密度 (人/km ²)
14,165	25.73	550.52
現在給水人口 (人)	給水区域面積 (km ²)	給水人口密度 (人/km ²)
14,052	25.73	546.13

グラフ凡例
■ 当該団体値 (当該値)
— 類似団体平均値 (平均値)
【】 平成28年度全国平均

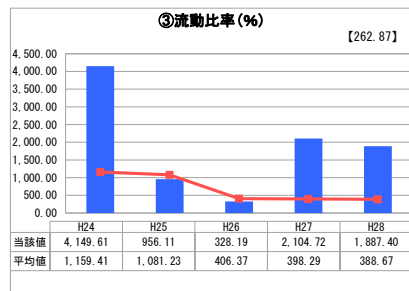
1. 経営の健全性・効率性



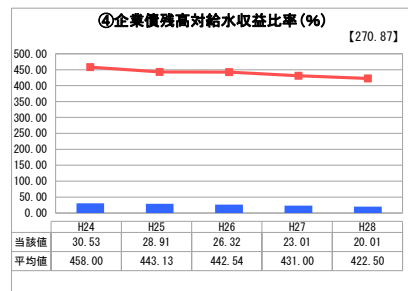
「経常損益」



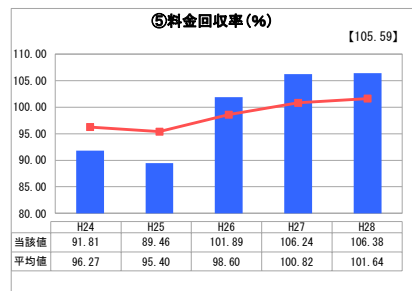
「累積欠損」



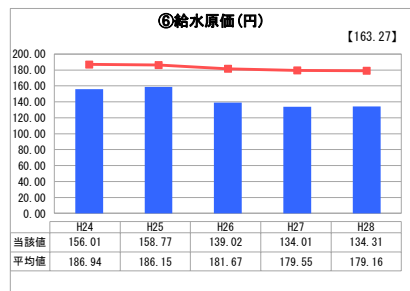
「支払能力」



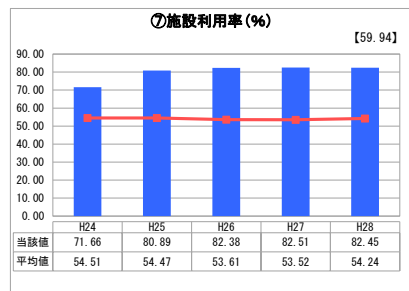
「債務残高」



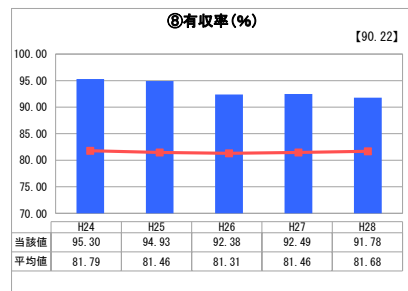
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

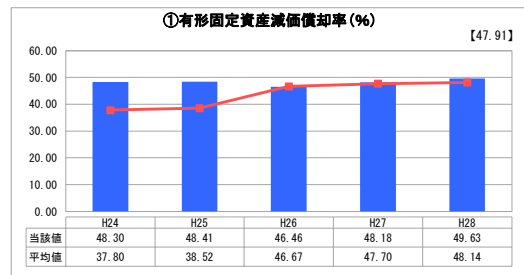


「施設の効率性」

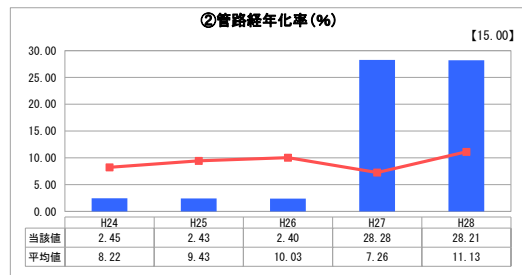


「供給した配水量の効率性」

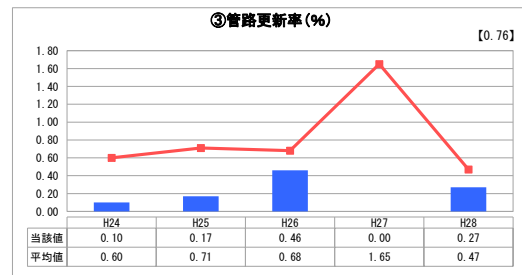
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管路の経年化の状況」



「管路の更新投資の実施状況」

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

①経常収支比率
指標値は100%を超えており、概ね平均値となっている。これは、単年度収支では黒字であることを示している。

②累積欠損金比率
これまで累積欠損金は生じておらず、今後も生じないように経営努力を継続する。

③流動比率
平成26年度に施設改修ひと段落ついたため、それまでの施設の耐震化に伴う支出による下降傾向から回復している。平成28年度は類似団体平均よりも高くなっている。なお、今後は、老朽管の更新事業が計画されており、流動比率にも留意しながら事業を推進する必要がある。

④企業債残高対給水収益率
企業債については、近年借入を抑制しており、類似団体平均値、全国平均値よりも大幅に低い状況である。なお、今後は、老朽管の更新事業が計画されており借入を予定しているが、企業債残高の規模が適正に保たれるよう経営努力を継続する。

⑤料金回収率、⑥給水原価
給水原価は、会計制度の変更に伴い算出式が変更し平成26年度は数値が大きく変化したが、その後は、横ばい傾向である。なお、料金回収率が100%を超えており、給水に係る費用が給水収益で賄われていることを示している。

⑦施設利用率、⑧有収率
施設利用率は平成25年度以降横ばい傾向であり、類似団体平均値、全国平均値よりも高い値を維持している。有収率は前年に比べ減少しており、引き続き効率的な配水に努める。

2. 老朽化の状況について

①有形固定資産減価償却率
水道資産の多くを占める管路は耐用年数に満たない資産が多く、大規模な更新時期となっていないことから、横ばいの状況が続いている。類似団体平均値と同程度の率となっている。類似団体の中では平均的な施設老朽化状況といえる。

②管路経年化率
平成26年度までは横ばい傾向であったが、平成27年度から大幅に上昇した。これは、平成27年度に実施したアセットマネジメント検討により、事業創設当初に設置した管路が法定耐用年数を迎えることが明確となったためである。今後は、これら創設当時の老朽管の更新を行う必要がある。

③管路更新率
平成28年度にアセットマネジメントを実施し、その結果を基に将来にわたる安定的な事業経営を維持していくための計画的に老朽管の更新を行う必要がある。

全体総括

鳩山町水道事業は、これまで、業務の効率化を図りながら健全な事業運営に努めてきた。平成28年度にアセットマネジメントを実施し、その結果を基に老朽管更新基本計画を策定し、この計画に基づいた老朽管更新事業に平成29年度から取り組む予定である。

また、平成28年度に将来にわたって安定的に水道事業を継続していくための中長期の基本計画である「経営戦略」（「投資・財源計画」を含む）を策定し、さらなる業務の効率化を推進しながら、事業の健全性を確保するため、水道料金の引き上げ等の検討を行う必要がある。

※ 平成24年度から平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、管路経年化率及び管路更新率については、平成26年度の実績を基に類似団体平均値を算出しています。